

自ら学び 共に高め合う「修成っ子」の育成



本校は、昨年令和5年度に創立150年を迎えた伝統校であり、地域にお住まいの多くの方々が本校出身者という、地域とともにある学校です。赴任して数か月ですが、地域や保護者の方々の愛校心あふれる学校であることが感じられます。

上記画像は、旧木造校舎玄関に飾られていた「修徳成業」の扁額で、今でも職員玄関壁面に掲示しています。この扁額は、明治の初め本校の前身である「修成学校」が伊予町円明寺東隣の地にできたころに作られ、講堂や玄関など学校の最も重要な場所に掲げられてきたそうです。また、「修成」という校名の語源を示す貴重な資料にもなっています。さらに、題字を書いた藤堂高猷(とうどうたかゆき)は、江戸時代最後の津藩主(11代)で、津駅の西方に位置する「偕楽公園」を造った人物でもあり、明治維新の際、知藩事を務めました。

この「修徳成業」つまり「善い行いをする性格や、人を感化する人格を身につけて、学問や技芸を成し遂げる」は本校の校訓であり、これまでに「学校教育目標」に設定してきたこともあります。

令和7年度は52名の1年生を迎え、全校児童数331名の子どもたちとともにスタートしました。本年度も、「自ら学び 共に高め合う『修成っ子』の育成」という学校教育目標のもと、「子どもたちが自ら考え、学び合う」過程を重視し、「主体的、対話的で、深い学び」となるような授業展開を実践するとともに、「自分を大切にし、仲間やまわりも大切にする子ども」の姿をめざして学校運営に取り組んでまいります。

保護者の皆さま、地域の皆さま、これまでと変わらぬご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年4月

津市立修成小学校
校長 近澤 慎弥